JA会津よつば

地域の魅力育む

2品目 売り上げ過去最高

ＪＡ会津よつばの南郷トマト、昭和かすみ草は2022（令和４）年、ともに過去最高の売り上げを達成した。確かな品質に全国の市場の評価が年々高まっており、生産者やＪＡ関係者らはさらなる品質の向上と販売促進を誓っている。

南郷トマト

栽培60周年 努力実る

南郷トマトの2022年度の販売額が10億9500万円と過去最高だった。昨年度は1962（昭和37）年の栽培開始から60周年の節目の年。Ｉターンや Ｕターンを含め多くの新規就農者を受け入れてきた他、品質向上や出荷量拡大などに取り組んできた関係者の努力が結実する形となった。

南郷トマトは2018（平成30）年に農林水産物や食品の地域ブランドを知的財産として保護する国の「地理的表示（GI）保護制度」に県内で初めて登録された。

同制度は2015年6月に施行された「特定農林水産物などの名称保護法」に基づく制度。将来的な海外貿易の活発化に備え、国内ブランドの保護に向けて創設された。地域と結び付いて生産される優れた品質の農林水産物や食品を登録する。品質管理のチェックや登録表示を義務付けるとともにブランド名の不正使用に対して国が取り締まる。

寒暖差の大きい南会津地方の気候が育む優れた品質と長年にわたり培われた栽培技術などが名実ともに認められた。

向上心を詰め込んで

農家 吉津さん「収穫量増やす」

就農10年目を迎え、さらなる飛躍を目指す吉津さん

只見町の吉津紘二さん（37）は町内の自宅近くで南郷トマト栽培をしている。今年は就農10年という節目を迎え、南郷トマト農家としてさらなる成長を誓っている。

就農のきっかけは町内の知人からの誘いだった。2010（平成22）年に町内の知人の経営する農園で南郷トマトの栽培を手伝い始めた。家族と幸せに暮らしながら生き生きと仕事をする知人の姿を目にし、「いつか自分も」と考えるようになった。2014年3月に結婚し、同年4月に就農した。

手をかけて良いトマトができた時の喜びや奥深さを魅力に挙げる。「毎年、課題が見つかって『来年はこうしよう』と意欲的な気持ちになる」と説明する。

新規就農を検討している人にとって、南郷トマト農家はメリットが多いと強調する。南郷トマト生産組合はこれまで積み重ねてきた知識や技術を組合員が互いに共有できる環境で、悩みも相談しやすい雰囲気があるという。「興味がある人は近くの役場やＪＡに相談してみてほしい」と呼びかける。

2022年度は生産組合の南郷トマトの販売額が過去最高を記録した。吉津さん自身も売り上げは過去最高だった。「今年度は売り上げや収穫量をさらに上回りたい」と飛躍を誓っている。

昭和かすみ草

「満天の星」人気幅広く

ＪＡ会津よつばかすみ草部会が販売している宿根カスミソウのブランド「昭和かすみ草」の2022年の販売額は6億908万円となり、2021年の約5億6200万円を上回って過去最高となった。

カスミソウは初夏から晩秋にかけて咲く。無数の花は「満天の星」にも例えられ、冠婚葬祭から観賞用まで幅広い人気を集めている。2022年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限が緩和されて結婚式が増え、需要が高まった。一方で、家庭内で楽しむ「巣ごもり」需要が継続していることも好調の要因となった。

昭和かすみ草の振興を支えているのが、昭和、柳津、三島、金山各町村と同部会などでつくる「昭和かすみ草振興協議会」だ。2019年9月に発足し、販売促進活動、新規就農者の呼び込みなどに協調して取り組んでいる。

協議会長を務める舟木幸一昭和村長は「奥会津4町村のブランドとして定着しつつある。今後も安定供給に努めたい」と話している。

教習所 頼れる存在に

研修生 本名さん「早く一人前に」

酒井さんから指導を受け一人前の生産者になることを誓う本名さん（右）

昭和かすみ草を栽培したいという新規就農希望者も続々と増えている。振興協議会は、栽培技術などを学ぶ「かすみの教習所」を開講している。参加者は1年間、地元生産者の指導を受け、本格的な就農を目指す。教習所は新規就農者にとって心強い存在となっている。

今年度は昭和村で6人、柳津町で3人が研修に臨んでいる。このうち、昭和村で研修している本名隆浩さん（34）は、生産歴約20年の酒井晶雄さん（64）から指導を受けている。

本名さんは「新たな挑戦で不安もあったが、優しく丁寧に教えてもらえて本当にありがたい。早く一人前の生産者になって貢献したい」と笑顔を見せた。酒井さんは「仲間が増えるのは心強い。力を合わせ、昭和かすみ草の魅力を発信したい」と語った。

冷気利用し管理 貯蔵施設「雪室」

カスミソウの出荷の拠点となっているのが昭和村にある村農林水産物集出荷貯蔵施設で、通称「雪室（ゆきむろ）」と呼ばれている。

雪室は収穫されたカスミソウを出荷までの期間、雪に触れた冷気を利用して管理する低温貯蔵施設。2005（平成17）年度に稼働し、2021年に機能を強化する改修を行った。年間を通じて高品質の商品を市場に届けている。

ごあいさつ

ＪＡ会津よつば かすみ草部会長 立川　幸一

かすみ草部会のかすみ草栽培は昭和村から始まり、葉タバコの廃作奨励を契機に生産が盛んになりました。次第に近隣町村に広がり、現在は4町村92人の部会員数を数え、40周年を迎えます。

採花は高温の時間帯を避け夜明け前の涼しい時間帯に行うことで、品質向上につながっています。品質が保たれた状態で採花されたかすみ草は、雪を利用し予冷できる集荷場「雪室」に集荷され、最適な温湿度で出荷を待ちます。「雪室」は、パーフェクトコールドチェーン体系が確立され低温輸送による品質管理で全国28市場に出荷されています。

昨年、部会最高となる6億円を超える販売額となりました。さまざまなユーザーの要望に応え、色鮮やかな「染かすみ草」、業務需要が多い、枝の短い規格の「2S」「3S」の出荷を行った結果です。廃棄ロスも少なくなり販売額の向上につながっています。

新規就農者の確保にも努めており、昨年は4組、今年は7組の新規就農者を迎え、来年就農予定の6組も現在研修中です。7億円の販売額達成に向け部会員一丸となり、皆さまに喜ばれる「昭和かすみ草」の栽培に、より一層取り組んで参ります。

ごあいさつ

ＪＡ会津よつば 代表理事組合長 原　喜代志

県民の皆さまおよび消費者の皆さまには、ＪＡ会津よつばの「南郷トマト」「昭和かすみ草」を初めとする農畜産物につきまして、日頃より特段のご厚情とご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は南郷トマト生産組合とかすみ草部会において、過去最高の販売高を達成することができました。生産者のご努力はもちろんのこと、お取引に関係する市場・流通関係者の皆さま、技術栽培普及の指導機関の皆さま、産地振興に深いご理解とご尽力を賜ります市町村の皆々さま、会津産農畜産物をお買い求めくださいます消費者の皆さまとの絆が、より深く強くなった結果です。

過去最高の販売高達成は、先人たちのご努力と自然災害等の困難を乗り越えてきたからです。決して他産地に比べて栽培する環境は良くないものの、地の利を生かした栽培は、日々の研鑽と創意工夫、向上心によって新たな栽培者を育み「100年産地」へと歩き出しています。

ＪＡ会津よつばといたしましては、持続可能な産地形成と会津プラント確立のため、生産者と汗をかき、今まで以上に努力を重ねて参りますので、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ

南郷トマト生産組合 組合長 高木　正貴

南郷トマトは皆さまのおかげをもちまして、昨年度栽培開始60周年において過去最高販売額10億9500万円を達成することができました。昭和37年、旧南郷村14人によって栽培が始まった南郷トマトは、気候風土がトマト栽培に適していたことと相まって、現在、南会津町、下郷町、只見町で栽培され、栽培戸数105戸、栽培面積約31㌶までに発展いたしました。

60年の歴史の中には雪害・水害等の自然災害の他、さまざまな困難に見舞われましたが、皆さまのご支援をいただきまして無事乗り越えることができました。南郷トマト生産組合はこれまでも、これからも「100年産地」を目指して南郷トマトを栽培していきたいと考えております。その一環として、地域団体商標登録取得（平成19年1月）、GI地理的表示保護制度取得（平成30年8月）、現在では、JGAP団体認証の全生産者取得に向けて取り組んでいます。

私たち南郷トマト生産組合は、ご愛顧くださる皆さまへ「安全・安心」でおいしい南郷トマトをお届けしたいと思い、日々精進しております。これからも南郷トマトを、どうぞよろしくお願いします。

JA共済の地域貢献活動

私たちはこれからも会津の農を応援し続けます。（五十音順）

市川地方卸売市場 株式会社 市川 フラワー オークション ジャパン
王子コンテナー株式会社
株式会社沖縄県花卉卸売市場
生花の仲卸のお店 かいせいせいか
京都生花株式会社
地方卸売市場 株式会社埼玉園芸市場
株式会社ＪＦ兵庫県生花
株式会社するが花き卸売市場
東京都中央卸売市場世田谷市場 株式会社世田谷花き
株式会社仙花
仙台市中央卸売市場花き市場 仙台生花株式会社
株式会社 第一花き
TAMA TOKYO ティー・エフ・シー東京フロリネット株式会社 TFC多摩生花
株式会社 花満
東京都中央卸売市場・葛西市場 東京フラワーポート株式会社
株式会社東日本板橋花き Quality・Quick・Quest
株式会社福島花き
株式会社フラワー オークション ジャパン
丸果会津青果株式会社
花き地方卸売市場横浜南部 横浜花き園芸株式会社